

個別支援学級 生活単元学習の実践

1 単元名 「コンサートをひらこう」(全 28 時間)

2 単元目標

- コンサートを開くという目標に向かって、話し合いをしたり練習をしたりする活動を通して、みんなで作っていく楽しさを味わう。
- コンサートを開くことにより、伝えることができた満足感や、認められた喜びを味わい、次の活動への意欲を高める。

関心・意欲・態度	思考	技能・表現	知識
コンサートのための話し合いや練習、準備に意欲的に取り組もうとする。	コンサートを開くために必要なことを考えることができる。	自分の考えや思いを自分なりの方法で伝えることができる。	コンサートを開くためには練習や準備が必要なことを知ることができる。 コンサートのための仕事が必要なことを知ることができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

個学テーマ『感じる心・もっている力を発揮する自分』

・まわりのものごとに心を寄せる姿。 ・いっしょに活動することを楽しいと感じる姿。

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの切実な問題をみとった単元構想と授業づくり

(1) 単元と指導

①単元について

子どもたちは、4月からの活動を振り返ることで、本当に様々な活動をしていたことに気づく。「面白かったね。」「またやりたい。」等の会話の中から見せたいという思いが生まれてくる。認めて欲しい・ほめて欲しいという強い思いをもっている子どもたちには、魅力的な内容であり意欲をもって取り組むことができると考える。また、発表するまでにはたくさんの練習が必要であることから、中だるみになり途中から意欲や集中力が低くなることも考えられるが、一人一人に合った支援をすることで、成長していくことが期待できる単元である。

発表することを通して、見てもらえた満足感や認められる喜びを味わえた子どもたちは、活動への意欲を膨らませて次の活動にも取り組んで行かれるだろう。

②指導について

話し合いの内容の理解や、イメージをもったり膨らませたりすることが得意ではない子どもたちであるので、4月からの活動の様子を動画や写真にして見せ、視覚に働きかけながら学習を進めるようにしたい。

話し合いは、数名の子どもの意見で進んで行くと思われる。特に知的障害支援級の子どものにとっては話し合いは難しい。話し合いが難しい子どもたちは友だちが言ったことの真似でもよしとし、その子たちが意見を言えるように指導者が支援をしていくようにする。

28時間という長い単元であるため、意欲や集中力が落ちないように支援をしていかなければならないと考えている。

本単元ではまず4月からの活動を思い出すことから始まる。子どもたちは映像を見ながら活動の様子を思い出すことができる。「フラダンス・ミュージックベル・やまびこさん・和太鼓」の4つに絞られてくる。そこで、たっぷりと時間をかけ楽しかったことなどを話すうちに、「もう一度やってみたい。」「他の人にも見せたい。」という思いがはっきりと見えてくると思われる。「誰に」という視点が加わり相手を意識することで更に「見せたい。」「見て欲しい。」という思いが膨らんでくる。理由を言える子には言わせることで、思いやねらいがはっきりしてくることを期待している。子どもたちのほとんどは、すぐに発表会ができると思うだろう。「すぐに発表できるかな。」と問いかけることで、おや?と考える子が何人かいるだろう。「準備が必要。」「練習をしなくちゃ。見せられない。」

「喜んでもらえない。」という思いから、練習の必要性に気付くのではないかと思います。練習は生活单元だけでなく音楽科の時間にも行うようにする。

先のことを見通すことが苦手な子どもたちであるため、練習や準備の進み具合を確認しその度に「もう発表できますね。」と聞くようにする。1回目練習のスタート。2回目では、衣装について気づかせるために、衣装の実物や、高校生が演奏しているときの様子を見せる。3回目（本時）では、コンサートを進めるための仕事について気づかせる。司会・初めの言葉・終わりの言葉・プログラム・看板・招待状などの準備に気付かせたい。なぜその仕事が必要なのかを話し合うことにより、もう一度コンサートに対する期待感が膨らむのではないかと考える。コンサート終了後には、振り返りの活動の中で友だちと思いを交流することで「みんなと練習をして上手になって嬉しい。」というみんなで作上げる楽しさを感じられることや、「また、やりたい。」「喜んでもらえて嬉しい。」という気持ちたちが更に高まるのが個学の子どもたちにとってのひびき合いと捉えている。

4 単元指導計画（全 28 時間）

	学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】
1	4月からやってきたことを思い出そう。 ・劇・アロハ マハロ レストラン・野菜作り ・やまびこさん・ミュージックベル・和太鼓	・思い出せるように、写真や動画を用意する。 ・思いをたくさん話すことにより、次の活動への思いや意欲が膨らむようにする。 【関心・意欲・態度】 思いを伝えようとしていたか。 次の活動への意欲、関心を持っていたか。
2 ～ 11	練習をする ・コンサートの名前をきめる。	・映像を見ながら、練習ができるようにする。 ・お互いに見合うことができる場面を設定する。 ・繰り返し行うことで覚えることができるようにする。 【関心意欲態度】 最後まで練習に集中していたか。 練習を楽しんでいたか。 ・理由を言わせることで、コンサートへの思いをはっきりさせる。 【思考表現】 理由を言うことができていたか。
12 ～ 17	練習のほかに準備するものを考えよう。	・実物や、映像を見せることでイメージしやすくする。 【思考表現】 イメージを膨らませながら考えていたか
18 ～ 21	衣装の準備・練習をする。 ・フラダンスに合った衣装 ・和太鼓演奏に合った衣装	・表現することを楽しむことを大事にしたい。そのため細かな点については指導を入れない。 【関心意欲態度】 表現することを楽しんでいたか。
22 ～ 25 本時 22/28	コンサートをするのに準備することを考える。 ・コンサートのための仕事を考える。 ・係を決める。 ・係ごとの仕事を進める。 ・係の練習をする ・リハーサル	・今まで見てきた発表会の様子を参考にできるように、写真等を用意する。 ・一人一人に合った係になれるようにする。 ・係が決まったら、係ごとに練習や、準備を進める。 ・思いが達成できるように適切な支援をする。 ・リハーサルを行うことにより不安を取り除く。 【関心意欲態度】 自分の役割に責任をもっていたか。
26 ～ 27	コンサート本番	・子どもたちが自信をもって活動できるように適切な支援をする。 【関心意欲態度】 表現することを楽しんでいたか。
28	コンサートを終わって気持ち ・コンサート本番後の気持ちを交流する。 ・練習や準備の時の気持ちを交流する。	・準備や練習の過程についても振り返りをさせる。 ・振り返りしやすいように映像を用意する。 ・観客の感想も伝える。 【関心意欲態度】 表現することの楽しさを感じていたか。次の活動への意欲をもてたか。

5 単元構想

生活単元 「コンサートを開こう」(全 28 時間) 本時 22/28

単元のねらい

- コンサートを開くという目標に向かって、話し合ったり練習をしたりする活動を通して、みんなで作っていく楽しさを味わう。
- コンサートを開くことにより、伝えることができた満足感や、認められた喜びを味わい、次の活動への意欲を高める。

4月からやってきたことを思い出そう。①

「アロハ・マハロレストラン」

思い出しやすいように写真を用意する

すぐに発表できるかな？

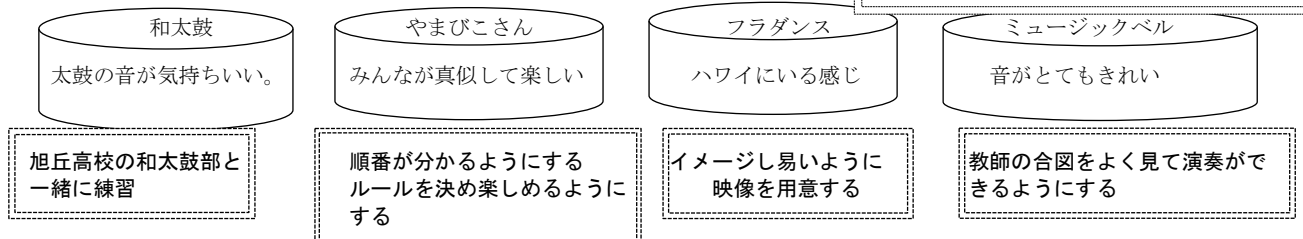
音楽で「やまびこさん」「フラダンス」「和太鼓」「ミュージックベル」

みんなに見せたいなあ

先生・友だち・家族

できます。 できないよ ・準備が必要だ。 ・練習をしないと見せられない。 ・喜んでもらえない。 ・一番いいものを見せたい。

生活単元・音楽科の時間に練習をする。



練習⑩ 楽しくなってきたね。

とても上手になりましたね。もうコンサートを開くことができますね。⑥

できます。 できないよ。

イメージしやすい映像を用意する。

- ・フラの衣装をつけようよ。 ・旭丘の人ははっぴみたいのを着ていた。
- ・つけたほうがかっこいいよ。
- ・フラダンスで歌っていいのかな。 ・歌いたいな。
- ・やまびこさんはだれがやるの？ ・やりたい。
- ・太鼓がないよ。 どうしよう。 ・コンサートの名前まだ決めてないよ。

図工で衣装等の製作

できます。 まだできないよ。

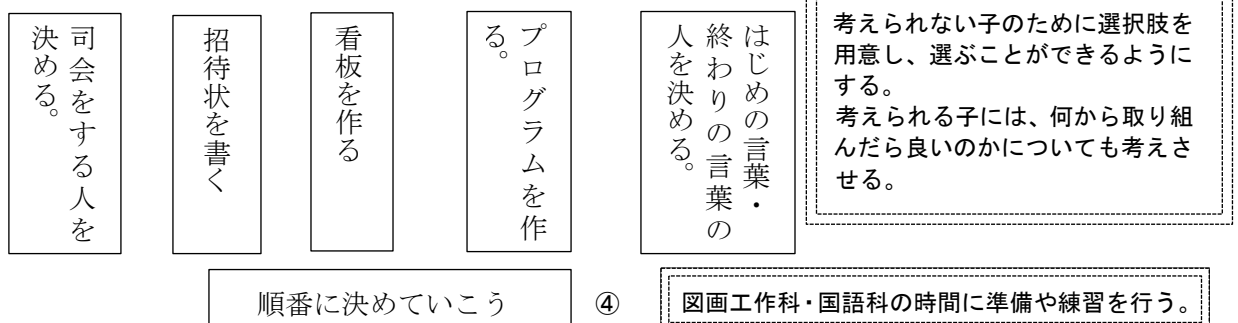
準備が必要

もっと練習しよう

練習・準備をする。④

コンサートを開くのにどんなことをしたらいいのだろう。

(本時 22/28)



- ・誰がやるのか決める。 ・始めの言葉をやりたい。 ・司会をやりたい。
- ・看板はみんなで描こう。 ・だれに招待状を書くのかな。

本番の会場で繰り返し通し練習を行えるようにする。

コンサート本番

②

振り返りをする。①

- ・たくさんの人が来てくれて嬉しい。 ・上手に発表できたね。 ・お友だちが来てくれた。 ・先生もいたよ。
- ・褒められて嬉しい。 ・喜んでもらえて嬉しい。 ・楽しかった。

また、コンサートを開きたい

6 本時案（別紙）

7 実践を終えて

個別支援学級の児童は、それぞれがかかわり合いながら話し合いを進めることが難しい。一人一人が持っている思いを大切にしながら、よりよいかかわり合いができ個学の子どもたちなりにひびき合いが高まるための支援や、指導の工夫をしてきた。また、興味関心や集中力が持続できるような工夫も行ってきた。

◎視覚支援の工夫

- ・活動の様子を写真やビデオに撮り、それを活用することで、どの子にも何をするのかが分かるようにした。
- ・板書については、写真を用いたり、色分けをするなどの工夫をした。
- ・太鼓のリズムについては、フレーズごとに短冊に書き、どのリズムを演奏するのかが一目でわかるようにした。
- ・フラダンスの踊り方については、振りのイメージを絵であらわし音楽と合わせたDVDを制作し、映像を見ながら踊れるようにした。

◎子どもたちがやりたいと思えるような活動・教材の工夫

- ・和太鼓の体験 和太鼓部の高校生との交流から太鼓の響きやリズムの面白さに興味を持つことができた。交流は1回だけではなく、定期的に行った。
- ・音楽の学習でフラダンスを行ってきた。ゆったりとした曲に合わせ踊ることができ、大好きになった。
- ・「やまびこさん」という曲の掛け合いや、ポーズの面白さを楽しんだ。ミュージックベルのさわやかな音も子どもたちは好きである。

◎話し合い

- ・板書により、何を話し合っているのか分かるようにした。 解決したことが分かるようにし、安心して次の活動や話し合いに進めるようにした。
- ・一人一人の子どもの特性や、思いを見取り、話し合いの中で活躍できるようにした。

◎単元構想

- ・スモールステップで進めることにより、どの子にも活動内容が見え、次に何をしたらよいか分かり、安心して活動を進められるようにしてきた。
- ・学習を進めるうちに、ただ「やりたい。」「見せたい」という気持ちが、「頑張っている姿を見せたい」「ありがとうの気持ちを伝えたい」という気持ちまで高まり『がんばる。アロハ マハロ コンサート』という名前が生まれた。また、太鼓の練習を重ねていくうちに本物の太鼓を打ちたいという思いが生まれ、太鼓を高校生に貸してもらえるようお願いし手紙を書く活動が生まれた。
- ・学習してきたことを発表することや、学習を振り返ることを通して、「自分」から「伝える相手」を意識することができた。伝えることの喜びを感じることもできた

このようなことを行ってきたことで、子どもたち自身に学習の流れが分かり、新しい学習に入った時でも、どんな準備が必要か・どんなことを決めるかなどについて自分たちで気づくことができるようになってきた。友だちの考えや思いを聞き、自分の考えを伝えられる子も現れた。（ひびき合い）考えを言うことができない子も、話し合いに集中する姿が見られるようになった。しかし、行ってきたことが一人一人の力として獲得できたということではないと考える。今後も、子どもたち一人一人の特性と思いを見取り、単元を見通して適切な支援や、学習展開の工夫をしていくことが必要である。